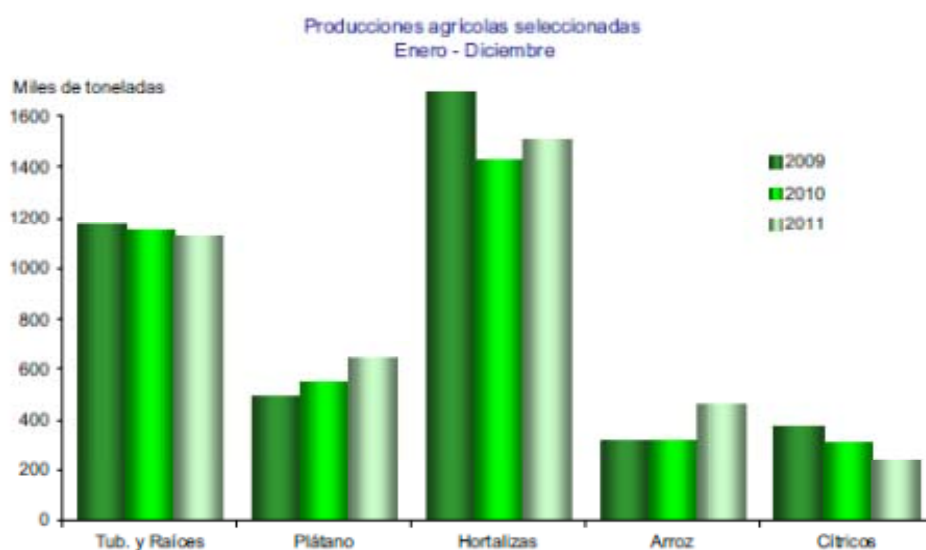


キューバ農業、真相は？

最近、2011年のキューバ農業の統計が、キューバ国家統計局(ONE)から発表されました。それによると、食料品価格が、ほぼ20%値上がりしたとのこと。キューバで食料危機が、全国的な有機農業の展開で回避されたというのは、フィクションとしても、実際はどうかのでしょうか。詳細を見てみましょう。

ONEの統計によれば、2011年農産物は、平均24.1%値上がりし、肉類は8.7%値上がりしました。ONEの今回の発表では、グラフを見れば、根菜類、柑橘類の生産は、2010年より減少しています。一方、料理用バナナ、野菜類、米の生産は、若干増加しています。



(注：左から根菜類、バナナ、野菜、米、柑橘類)

しかし、同じONEの2010年の統計と比較すると、2011年には、根菜類・野菜類は、40.5万ヘクタールで栽培され、根菜類176.6万トン、野菜類150.4万トン、合計327万トン生産されました。反収は、8kgs/m²です。ところが、2010年のONEの統計では、根菜類・野菜類は、43.2万ヘクタールで栽培され、根菜類225万トン、野菜類214.1万トン、合計439.1トン生産されています。反収は、10.1ks/m²でした(下記の表参照)

	2010年	2011年	2010/2011比較
栽培面積 万ha.	43.2万ha	40.5万ha	2.7万ha 減
生産高 万トン	439.1万	327万	112.1万トン(25.5%)減
根菜類 万トン	225万	176.6万	48万トン減
野菜類万トン	214.1万	150.4万	63.7万トン減
反収 kgs/m ²	10.1ks	8kgs	2.1kgs.減

出所：2010年、ONE Anuario Estadístico de Cuba 2010.

2011年、ONE Sector Agropecuario, Indicadores Seleccionados.

農産物が平均24.1%値上がりしたことは、もしこの統計が正しかったならば、うなづけるものですが、グラフの数値とは一致しません。キューバ人エコノミストたちがよく嘆くように、ONEの統計数値にしばしば問題があるのです。

また、2月4日に、都市・準都市農業年間総括会議で、グスタボ・ロドリゲス農業大臣が、「2011年は、都市・準都市農業で109.3万トン生産した」と報告しています*。そして「反収は19kgsであったが、2012年には反収を20kgsに伸ばす予定」と述べています（Prensa Latina, Febrero 5, 2012）。かつてキューバは、都市農業で2004年370万トン、2006年411万トン生産したと報告されていましたが、筆者は、こうした現実離れした数字に疑問を呈していました。もし、この100万トンという数字が本当ならば、これらの数字はどこにいったのでしょうか（拙稿『アジア・アフリカ研究』2007年第2号Vol.47 No.2 通巻384号掲載、「キューバにおける都市農業・有機農業の歴史的位相」参照、本ブログにも掲載）。

*キューバ有機農業信奉者の方々は、これが、すべて有機農業によるものと安易に理解しないでください。都市農業＝有機農業ではないのです。

ここで、反収について述べますと、日本の集約的な農業でも野菜は、栽培品目によりますが8-15kgs/m²程度です。キューバのような、都市農業といっても日本からすればはるかに粗放農業であり、資材や機械が不足している条件では、反収が19kgsなど考えられない数字です。事実筆者がキューバの農業者に聞いたキューバでの反収は良くて10kgs/m²ということでしたし、統計から算出した数字もそれを示しています。

ところで、農産物の自由市場で値上がりしたのは事実のようで、キューバ市民の自由市場での購買は、家庭消費分の30%程度であるので、食費は8%程度増えているでしょう。しかし、昨年平均賃金は、448ペソから2.7%増加し、460ペソとなっただけですから、生活は一層苦しくなったことと思われまます。

キューバ農業は、統計数字も誤りが少なくありません(低く報告されることはまずありません)。また、日本から視察を依頼するとお決まりの定番コースを案内します。そしてインタビューした人びとは、まさに針小棒大に成果を語ります。そうした方法から、キューバ農業の実態が歪められるのです。木を見て森を見ないようにはならないようにしたいものです。昨年8月にこのウェブで掲載しました「苦悩するキューバ農業」で、キューバ青年共産同盟(UJC)の機関紙、『フベントウ・レベルデ』がいうように、「統計ではお腹が一杯にならない」のです。

(2012年2月9日 新藤通弘)